

かねだ勝年後援会NEWS

～菅内閣から野田内閣へ～



H23.9.3付 菅総理退陣・野田新総理就任にあたり

昨年6月の菅政権発足から1年3か月、ついに菅総理は辞任し、新しい民主党代表・総理大臣に野田佳彦氏が選出され、歴史的な政権交代から僅か2年で3人目の総理に代わる事態となりました。

一昨年の総選挙の時民主党は、無駄の削減で政策の財源をいくらでも捻出できると言いながら、財源は見いだせず全く実現できませんでした。菅総理だけでなく、鳩山前総理も含め、民主党政権そのものが言葉や公約とその実現に責任を持たない政権だと言わざるをえません。

かつて、自民党が総選挙以降3人目の総理を選ぼうとしたことを、民主党は「民意(選挙)の選択を経していない」と批判しておきながら、自ら3人目の代表・総理を民意を経ずして選んだことは言行不一致です。

財源が確保できず国民に約束した政策がことごとく行き詰まり、実現できなかった以上、民主党政権の正当性はありません。野田新総理は、しっかりとそのことを総括・反省し国民に謝罪した上で、解散して民意を問うべきです。

予算委員会でも指摘しましたが、民主党政権は、国民受けのよい心地よいことは強調するが耳障りなことは先送りし、責任を他に押し付け自ら責任を取ろうとしません。思いつきや場当たりのその場のぎの政権運営が続くのは、民主党内にしっかりと意思決定プロセスがなく、最終的に集約する意思決定機関もないからです。

新内閣の閣僚を見ても、これまでの実績や経験が乏しく手腕は未知数であり、グループ(いわゆる派閥)のバランス、代表選の論功行賞で選ばれた人も多く見受けられます。就任後早速、「素人だから…」などと発言する大臣もいたようですが、そのような心構えでは、東日本の復興や原発事故の収束をはじめ、円高への対策や雇用問題など、この難問山積の今、それぞれの閣僚がリーダーシップを発揮して官僚を使いこなしていくことは難しいでしょう。

野田政権は「3度目の正直」にはなりません。「2度あることは3度ある」、そもそも民主党には政党の根源たる綱領がなく、財源の裏付けのない公約(マニフェスト)はすでに破たんし、前原氏を政調会長に据えたところで、政策決定システムがはっきりしていないという、政権政党以前に責任政党たりえない状況にあるのが民主党です。

来る臨時国会では、本格的な復旧復興予算である第3次補正予算を、速やかに成立させるのはもちろんですが、民主党政権が続く限り国政の停滞と混乱から抜け出すことはできません。国と地域の課題解決のために、決められない政治、進まない政治からの脱却を目指し、私の与えられた立場でしっかりと追及していきたいと思います。

裏面へ続く…

H23.9.14付 民主党の自民党化

民主党前原政調会長は、野田政権の元での新たな政策決定システムを発表しました。

かつて民主党は自民党の政権運営の手法に対し、「族議員の温床、業界・官僚との癒着を生む」、「政府と党の権力の二重構造」とさんざん批判し、「政治主導」を主張してきました。しかし、「政治主導・脱官僚」を掲げる鳩山元総理、菅前総理がことごとく行き詰まったことへの反省なのか、ここに来て、廃止したばかりの各省庁の事務次官会議を復活させるとともに、小泉政権当時の経済財政諮問会議と似た組織を立ち上げたほか、政策決定に、政府と党の2重になる党の事前審査制を導入することを決めました。自ら「旧来型の政策決定システム」と批判し、公約(マニフェスト)に「内閣での政策決定一元化」をうたっておきながら元に戻すという、またひとつ民主党の公約違反のブレが明らかになりました。

私は7月19日の予算委員会の質問で、財源を中心に民主党の公約(マニフェスト)の多くが破たんしていることと民主党政権に意思決定システムがないということを追及しました。

7月21日には、当時の岡田幹事長が会見で、2009年総選挙で掲げたマニフェストについて「実現できていないものがある。見通しの甘さについて率直にお詫びしたい」と謝罪しており、また、菅総理(当時)も7月22日に「財源問題で見通しが甘い部分があった。不十分な点は国民に申し訳ないとお詫びしたい」と言及するなど、党のナンバー1・ナンバー2が相次いで、さも私の追及に応えるかのように政権公約不履行を認め謝罪するという異常事態となりました。

財源なき公約(マニフェスト)破たんを認めた上に、政権運営・政策決定システムについても、「政府と党の二重構造」とさんざん批判してきた自民党の手法をここにきてまねるなど、2年前に「政権交代で日本を改革する」言っておきながら、結果国民を欺いたことが明らかになりました。

自らの言葉に責任を持たない民主党に政権を担う資格はないということは言うまでもなく、民意(選挙)を問わずに自分たちだけで3代目の首のすげ替えを行って誕生した野田政権に正当性がなくなったことが、ここにはっきりしました。

衆議院議員 金田勝年